

# 十 コルネリオ会

(キリスト者自衛官の会)

ニュースレター №21

1977年 12月

## \* 伝 道

「そして主は救われる者を日々仲間に加えて下さったのである」

(使 2-47)

今年も伝道の季節をむかえて各地の教会では、その為の種々のもよおしが行なわれる。日本のプロテスタントも宣教100年を超えているがキリスト教国と言うには程遠く、未だに開拓伝道の域を越えないような教会が目につく。「恐れるな、小さい群れよ……」(ルカ 12-32)

このみ言葉は時に応じて我々に大きななぐさめと励ましを与えるが、しかしこれは小さい事の言訳のためのみ言葉ではない。重要なのは数ではなく、信仰の深さだとはよく言われる事であるが、それにしても使徒行伝に始まる世界宣教に於て苦難の中での爆発的な膨脹はどういう事なのであろうか。信仰に関する事や、神学に関する事は世上の理論や学問では容易に解明されない所がある。しかし信仰とは我々の生活を通しての事である以上、それを実行するためには世上の知識技術が大いに役立つのではなからうか。特に近年多くの学者達が聖書神学の解明のために科学的方法を十二分に取入れ、そのためむしろ「舟山に登る」程の現象さえ生じている事を思えば、そのような科学的努力が、もっと現実的な問題である実践神学の上にそそがれなくてはならないのではなからうか。

日本の国は今や経済的には世界の檣舞台の上であり、その市場は世界の

すみずみまで侵透している。これは日本人が固有観念から脱脚してあらゆる有効な方法を用いることによって始めて達成出来た事であろう。勿論その一つ一つの方法については正しくないものもあったかも知れないが、しかし全体的に見て理にかなわなければ、このような現象は起こり得ない、戦後日本の造船業は世界一となった。之は何百年もの間、造船技術のゆるぎない權威であった英国のロイド造船規格を放棄した事がその原因であったと言われている。

我々は伝道に当っても従来の伝統的方法のみに固執したり、外国から入ったような方法のみに頼ることではなく、我々日本人各自に与えられたたまたものをもっと活潑に用いなければならない。世界のすみずみまで名声を広めるような合理性と能力を持った信徒達が、教会では掃除かビラくぼりしか出来ないという事では与えられたタラントを地中に隠す(マタイ 25 - 14~) のと異ならないのではなからうか。

ここに最近市民がキリスト教にどれだけ関心を持っているかについての一つの調査がある。これは教会のバザーの際に集まった市民について取ったアンケートであるが、バザーは幼稚園の園舎と庭で行なわれた。会堂は同じ敷地内にあり、正門を入ると会堂入口の前を通過して園舎に行くことになる。出入する人数は毎年4千人内外と思われたが、そこでアンケート用紙を用意して会堂入口に場所を構え、アンケートに応じた人には抽選によって賞品をつけることにした。これは過去二年間行ったが、その結果、性別、年齢、職業、教会に対する関心等について、かなりくわしいデータを得ることが出来た。今年は之に一步進めて、人々に会堂内に入ってもらう事とし、会堂内には学園祭等でよく見掛けるような説明用ポスターを張り、それを見て問題に答えてもらう事とし、抽選の他に正解者には小型新約聖書を贈るという学習アンケートを行ったところ、150枚のアンケート用紙は開場してから1時間半でなくなった。回収したのは121枚でその内訳は、20才以上33、10才代46、10才以下27、記入なし15、であり、その中30才代が23名で、之には住所・氏名・年齢がはっきり書いてある。又

記入のない15枚は殆んど成年であった。アンケート部と氏名部とは切離したので対照は出来ないが、その大多数が、教会に出席したいという欄に丸をつけている。記名した成人の中には幼稚園児の母親の名が多く見かけられたが、それにしても内心教会に対する関心が深いことに驚ろきを禁じえない。今後のその人達に対する対応に心を用いる必要がある事を感じた。

我国は憲法によって信仰の自由は保証され、従って公の機関で特定の宗教を宣伝する事は必然的に禁ぜられているが、しかしそのため、もし国民が無宗教という名の特定概念に迫込まれているとしたら容易ならぬことであり、国際社会からも孤立することとなる。

クリスマスを迎えるに当って我々のなすべき事は国民の一人として主から与えられている責任を果たすべく勤めることではなからうか。

#### ✿ “Know your Bible” (第8回)

W. G. Scroggie

訳 宮崎 健男 (金沢フィラデルフィヤ教会牧師、防大8期)

##### 新約聖書「The new Testament」序論

「Testament」は契約の意味であり、およそ、契約のあるところには、二者がいなければならない。この場合には、二者とは、神と人である。しかしこれは新しい契約である、と言うことは、以前に何かがあったことを意味している。我々の聖書の訳文には「新しい」と訳される言葉が二つある。一つは、時間的に新しい意味(ネオス — ヘブル7-24)であり、もう一つは、品質において新しいと言う意味(カイノス — ヘブル9-25)で、両者共に、我々が新約聖書と呼んでいる書物の集合に用いられ、真理である。時に関して言えば、それは旧約の後に結んだ故に新しく、質に於いては、前の契約よりも優れている故に新しい。

旧い契約は律法を中心とし、その回りをめぐっているが、新しい契約は、福音の中とその回りにある。(ヨハネ1-17)

新約聖書は、旧約聖書の土台の上にある上部構造である。旧約は前影で

あり、新約は、その成就である。旧約は約束であり、新約は仕上げである。旧約は問題であり、新約はその解答である。旧約は開始であり、新約は、完成である。これらの契約は、分離しては正しく理解することが出来ない。

旧約聖書中には、39巻の書物があり、新約聖書中には、27巻がある。最も広義の分類は、伝道的な書物と、使徒的な書物でそれぞれ、4巻と23巻である。

それらは又5つの歴史書と21の教理書と1つの黙示録からなっていると分類することも出来る。

福音書は過去に関わるものであり、使徒の働き及び書簡集は、現在であり、黙示録は、未来に関するものである。福音書の中では、キリストは予言者であり、使徒行伝及び書簡集では、彼は、祭司である。又黙示録中では彼は王である。イスラエルは福音書に、教会は使徒行伝と書簡集に又世界は黙示録に、それぞれ色彩を与えている。福音書の中に、我々は、啓示された宗教の創始者を見る。使徒行伝と書簡集中に、その基礎を持つ。又黙示録の中に、その完成を見る。最初のグループの中に紹介があり、第二のグループの中に、適用があり、第三のグループの中に、実現がある。

「福音書中には、諸真理が、幼芽として見出され、使徒行伝中には歴史的に説明され、教理的には、書簡集中に展開され、応用され又、黙示録中には、象徴的に表現されている。」

この書巻集は、第一世紀の後半(紀元50-100年)に存在するようになり、代表的な時期は一世紀です。著者は8人で、ヘブル書を入れると、おそらく9人である。書巻の年代的な順序は、それらが書かれた順序であり、おそらく、次の様である。

ヤコブ書、マルコ伝、テサロニケ第一、第二の手紙、コリント第一、第二の手紙、ガラテヤ書、ロマ書、マタイ伝、ルカ伝、エペソ書、コロサイ書、ピレモン書、ビリピ書、ペテロ第一、第二書、使徒行伝、ヘブル書、ユダ書、テモテ第一書、テトス書、テモテ第二書、黙示録、ヨハネによる福音書、ヨハネ第一、第二、第三書である。我々の聖書の順序は、論理的

である。先ずキリストであり、それから教会、最後は、完成である。

これらの書物の価値は、歴史的にせよ、靈的にせよ、全て、その数や長さとは不釣合であり、人生や歴史に於けるその影響力は、測り知ることが出来ない。エデンに於いて始まった夜明けが、ここで真昼となる。旧約聖書に於ける予言のキリストは、福音書に於いては、歴史のキリストになっている。そして、書簡集に於いては、経験のキリストであり、黙示録に於いては、栄光のキリストである。

(次回へ)

イエス・キリストの奉仕

I		II						III	
準備		奉仕						完了	
1	2	3	4			5	6	7	
30日間	開始の出来事	ユダヤ伝道	ガリラヤ伝道			ペレア伝道	終結の出来事	40日間	
			前期	中期	後期				
マルコ	— 13	—	1:14 3:6	3:7 7:23	7:24 9:50	10:1 52	11:1 15:47	16:1 20	
ルカ	1:1 2:52	3:1 4:13	—	4:14 6:11	6:12 9:17	9:18 50	9:51 19:28	19:29 23:56	23:56 24:53
マタイ	1:1 2:23	3:1 4:11	—	4:12 7:14	7:45 15:20	15:21 18:35	19:1 20:34	21:1 27:66	28:1 20
ヘブライ	1:1 18	1:19 2:12	2:13 4:42	4:43 5:47	6:1 71	7:1 8:59	9:1 12:11	12:12 19:42	20:1 21:25

❁ 横山恵基兄昇天

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」（ヨハネ 15-13）

北部方面武器隊、第301武器中整備中隊所属、横山恵基兄は、去七月三十一日、余市町の海水浴場で、おぼれかけた友人を助けようと沖合から誘導していたが岸に到着する前に力つきて海中に沈み、友人は助けられたが本人は不帰の客となった。自分一人ならばおぼれる状況ではなく、又救助の途中でも自分の身の危険を案ずれば緊急避難することは法律上許される事であったが、兄はその道を選ばず、最後まで聖書の教えに従い、信念に忠実であった。兄のこの世の命は終っても、永遠の命のもとに天に迎えられている事を信ずるものである。

兄は静岡市の出身で熱心なクリスチャンホームに育ち、長じて16才の時、静岡インマヌエル教会で洗礼を受け、以後忠実な信徒として生き、東京桜美林高校卒業と同時に陸上自衛隊に入り、以来北方武器隊に勤務、その間北海学園大学経済学部経済学科を卒業、なお本年始め勤務成績優秀のため第5級賞詞を受けておられる。兄は又スポーツマンであり、スキーでは日本スキー連盟検定1級の腕前であり、札幌モイワブランデー杯、自衛隊スキー選手権大会、石狩地区大会等で入賞、将来はカナダ国際大会出場を目標に予定選手として訓練中であった。又バレーボール、持久走等中隊対抗競技でも代表選手であった。その上アマチュア無線免許を持ち、隊内の弁論大会出場等、その活動は将来の部隊の中堅となるべき模範隊員であった。

この事故に際し兄の属する母教会、静岡インマヌエル教会では松村牧師以下教会をあげて兄の死をいたみ、その信仰をほめたゞえている。その後送って頂いた教会週報には毎回兄の記事、兄の回想記事がのっているが、余白の都合でここにのせられないのが残念である。細かくは兄の直屬上官であった越田久一2尉（コルネリオ会員）のあかしによって承知して頂きたい。

## ● 横山恵基兄をいたむ

越田久一（北方武器隊）

52.7.31（日）今日も朝から暑くなりそうな雲一つない空、日曜礼拝の後帰宅、官舎の狭い室の寒暖計はすでに34℃までのぼり、北海道にしては一夏に一回あるかないかの、ウダルような暑い日でした。

子供たちに泳ぎに行こうとせがまれ乍らも、6月下旬配置になった新隊員教育隊の業務が気になり、部隊に顔を出さねば……何れにしようかと迷っていた矢先の13:30ごろ、当直幹部からの電話で横山3曹が水泳中行方不明との報を受けました。

胸の高鳴るのをおさえて急ぎ出勤、現場や連絡先等聞いた後関係上司や隊員に緊急連絡をし、現地にその後の情報を再三尋ねるもなかなか通ぜず、今にも飛んで行きたい気持ちをおさえて、静岡市在住のご両親へ一報を入れました。その直後、最も憂慮していた悲報が入り、神に祈っていた一縷の望みも切られ、暫らくはただ呆然とするばかりで、関係者一同絶句、気を取り直し祈りはしたものの私の頭の中は錯誤の連続でした。

その悲報をご両親にお伝えしている私の電話の側に、誰か水をコップに持ってきてくれたのを飲みほし、横山氏（父君）の冷静な質問にやっと我にかえり、経過をお伝えすることが出来ました。振返ってみて今だに記憶が定かではありません。横山3曹の事故に至るまでの経過は概略次のとおりです。

本年度初め、武器中隊から前記の教育隊教務主任を命ぜられた私は、助教の派遣もあることを知り、その際はぜひ横山3曹をも一緒に派遣してくれるよう中隊長にお願いし承諾を意しました。

6月下旬教育開始、横山3曹は新隊員35名の車両専門助教として、他の火器助教や営内班長をリードして、若い新隊員（平均年令18.2才）の中に自ら進んでとけ込み、課業は云うに及ばず課外活動の持久走・バレーボール・銃剣道等に卒先垂範、兄貴のように親われており事実、私の片腕となって活躍してくれておりました。

たまたま事故前日の7.30(土)教育隊のバレーボール大会があり、その試合のレフリーや模範試合に出場した後、友人の結婚祝賀会に出席その後大学時代の友人たち8名で積丹半島余別海岸に行き1泊キャンプ、翌31日帰途、余市町フゴッベ海水浴場で休憩昼食後、友人の知人で同行していた女性に水泳を教えてくださいと頼まれ指導中、女性が浮具用に持っていた発泡スチロールを流してしまい、岸にもどろうとその女性を誘導してきた際、岸から30mぐらいのところまで深みにはまり、横山3曹は泳げない女性をかかえて帰泳中、ついに力尽きて両者とも溺死状態になり波間に浮き沈みするのを陸にいた友人らに見えられ、直ちに救助活動は行なわれたが、グループの人たちは誰れも泳げず、警察官や漁民の助けをかりて舟を出した時はすでに2人の姿は見えず、やっと仮死状態の女性を発見救助したものの横山3曹の姿は見えず、約1時間後(14:30頃)海底に眠る姿で発見されたものであります。

(余市署検証の結果、多量の水を飲んでの溺死と判定)

緊急連絡で次々と出勤、またニュースを聞いて帰隊する隊員を分担して、所属中隊の副長を長に教育隊の区隊長ら主だった陸曹が現地に向いました。

その間、横山氏への連絡、調整を担当した私は、ご意向を承わって部隊内での葬儀を計画、関係上司に申上げたところ心よく証認を戴きました。

それと、日基島松伝道所の土橋修牧師のご指導をうけて種々準備する中、炎暑の日も暮れ涼しくなった21時ごろ、武器隊在隊者一同(100名余り)が迎える会場(駐とん地第1・2教場)に、親しい友人らの腕に持たれて、無言の帰隊をしたのであります。

遺体安置後、土橋牧師の司式で昇天の祈りが行なわれ、着剣の衛兵が立哨配置され、馬場駐とん地司令や急を聞いて帰隊した隊員の参列が遅くまで続き、中にはお棺にすがって男泣きに泣く同窓の方もありました。

翌8.1(月)駐とん地は朝から半旗でした。

午後、千歳空港にご遺族をお迎えし途中、土橋牧師宅に立寄ってご挨拶を述べられた後、駐とん地の会場へ、変りはてた我が子との無言の対面、しばらくして、優しく語りかけられる両親に、お父さん、お母さん、ようこそ……とでも答えそうな、口元に笑みをもったりっぱなデスマスクでした。

立哨の衛兵も銃をまともに支えることが出来ず、白手袋はクジャクジャでした。

同日 19:00～前夜式、翌 2 日告別の葬式がそれぞれ予定どおり挙行されました。

両日とも、会場の第 1・2 教場は、駐とん地司令馬場陸将をはじめ、近郊部隊代表、隊員関係の他、民間の学友やスキーグループの人達が多く参列され、準備した椅子 200 で足らず追加するも間合わず、立っておられた方もありました。

挙式の中でとくに、横山氏のリバイバル聖歌 262 番の独唱された時は参列者の中から、慟哭の音が続いておりました。

葬式の後、茶毘にふされその晩はご遺族と共に BOQ で一夜を過ごし、翌 3 日私と友人の車 2 台に分乗して、6 年近く住みなれた駐とん地に無言の別れを告げ、北海学園大学、スキーに通った藻岩山、冬のシーズン中よく宿泊した中山峠の管理人さんにご挨拶をし、札幌に一泊、4 日千歳空港より、父上の腕にだかれて懐かしの故郷静岡へ帰省しました。

100 時間にも満たない日時の出来ごとでしたが、横山 3 曹 24 才の生涯は、神によって与えられそして召されたものであり、その間の行ないは誠にそれにふさわしい数々の業を多くの人たちの心の中に残されて行きました。

かつ私自身に、神の僕はかくあるべきと強く教えて行ったものと信じております。

「一粒の麦、地に落ちて死なば豊かに実を結ぶべし」(ヨハネ 12-24)

横山3曹が助教として教えた新隊員35名は、奇しくも、彼の誕生日9月17日に卒業して、全道の武器隊にそれぞれ配置、集立って行きました。私はその後入校してきた52名の新隊員の隊長を命ぜられ、浅学の身に余る地位ですが、み言葉や、よき同僚らの協力で勤務しております。

教育隊の隊長は1人でも、その上には神の導きがあり、横山恵基兄も永遠にいることを信じて、よき羊飼いの門番として頑張っていく決心です。

#### ＊ 通 信

- 東調布教会牧師・東京聖書学校々長、小出忍先生から、次のお便りがありました。

……7月英国ケズイクコンベンション出席のため渡英、Capt. Godfrey Buxton のお宅を訪問、恵まれた時を持ちました。お茶の後 Capt. のドライブで陸軍大学、士官学校に案内され、特に Chapel で色々ご説明がありました。ケズイクの時司会者の発議で Queen に銀婚式の祝賀電報を送ることになり、割れるような喝采でした。王室との温い感情を感じとることが出来ました。Buxton 氏は武田先生の事をなつかしげに話しておられました。御祝福をお祈り致します。

- 中野島教会牧師・聖書神学舎教師、後藤茂光先生から、次のお便りがありました。

………コルネリオ会のニューズレターをご恵送下されありがとうございます。近著の第20号も興味深く読ませていただきました。また、多くのことを教えられ感謝しております。

お互にキリストの兵士、主にある戦友としてしっかり立ち、サタンと戦って参りたく存じます。神のすべての武具を身につけ、祈り、祈り合いながら各自の部署をしっかり守って行きたく願っています。 平安。

- 静岡インマヌエル教会牧師、松村導男先生から数次にわたりお手紙お

よび教会週報を送って頂きました。

……日本中のコルネリオの方々が国家の為に篤く祈る人になって下さるよう祈っております。糸井勇氏（元海軍大佐）よりの通信によれば夫婦で四日市インマヌエル教会に出席中の由です。

……「横山恵基兄召天感謝献金」を頂いたので、祈った結果、若くして召天された、恵基兄を記念し七千円で折皮の旧新約聖書を買ったので、十二年間日夜愛用して書き入れの余白がない程になり、いたんだ聖書にお別れの辞を書きました。

……「横須賀市陸上自衛隊105中隊で教育を受けておられる勝山昌之兄より、初めての月給の十分の一献金が送られて来ました。二ヶ月は外出が出来ないので、手紙で励まして上げて下さい。」

……「自衛隊内の勝山兄より、隊内に数名のクリスチャンが見つかり、交りを持っておる由、防衛大学の今井教授よりコルネリオ会ニュースレターが送られた由。」

9 勝山昌之兄（武山駐とん地 105中隊）

松村導男牧師より紹介され、ニュースレターを拝見、忙しい中にこれほどの会をつくってられる事は大へんすばらしい事と思います。私もキリスト教にふれてまもなく、まだ何もわかりませんが、聖書のすばらしさに、いつも感激しています。これから信仰を深めていきたいと思っておりますので、この会の活動内容を教えて頂き度く思います。いろいろな宗派がありますが、どのような形をおとりになっているのかお教え下さい。またニュースレターを送って下さい。御多忙中恐れ入りますが、是非お力添え下さいますようお願いいたします。

（なお勝山兄の新任地は北海道北千歳の特連との事です。千歳支部によりしく願います。）

○ 中生啓一兄（調本東京支部）

51.10.16付、調達実施本部東京支部検査二課へ転勤しました。住所は立川市栄町1-6-1 防衛庁宿舎821、教会は立川聖ペトリック教会（聖公会）へ行っています。7月1日付三海佐に昇任しました。

● 昇任、転勤、住所変更等の場合はお知らせ下さい。

● コルネリオ誌原稿募集、論説、あかし、近況、通信、何でも結構です。

コルネリオ事務局

（日本OCU）

横須賀市走水一丁目 防衛大学校

応物教室 今井教授気付